

山行報告書

山行管理部

自然保護部 歌垣山 10月23日 CL石野(明)、SL目加田

参加15名(内こもれび5名)

阪急川西能勢口 10:05 ^{バス} → 歌垣山登山口 10:30 ~ 歌垣山山頂 11:35 (昼食)

12:55 山頂発 ~ 倉垣橋 13:55 (バス待ち) 15:11 発 ^{バス} → 妙見口駅 16:05

くもり空ながら傘の出番もなく、山の会こもれびと交流ハイキングが出来ました。山頂まで1時間あまり。歌垣山は男山、女山と双耳峰になっていて、男山山頂には東屋があり、ここで洋風スープを作って昼食。歌垣山はいにしへの昔、村の若者男女が集まり歌を詠み合わせたという。こもれびのリーダーSさんは短歌の代わりに川柳づくりを提案。みんなで挑戦(別掲載)。雨が予想されたので山頂へ急ぐ必要があり、きのこ狩りの時間も取れず残念ながらきのこは不作。

ヌメリツバタケ、ニガクリタケ(毒)2種類ぐらいしか観察出来ませんでした。

(石野(明)記)

公開山行 有馬三山縦走 10月27日

C

L高橋 SL堺、稲田理、豊村 44名(内一般2名)

8時 阪急梅田発新開地行特急—神鉄56分発準急—有馬温泉駅9時40分—
10時30分落葉山—11時15分灰形山—12時30分湯槽谷山・昼食。1時下山。
2時鼓ヶ滝公園。3時有馬温泉駅。

10月28日 日曜 無風快晴の絶好の山日和に実施できました。紅葉はこれからという感じでしたが、あちこちに紅葉、黄葉が見られました。秋の花のコウヤボウキ、シロヨメナ、ヒヨドリソウ、ツワブキの花も見受けられました。有馬温泉駅から落葉山に登り、中腹で朝のセレモニー。すぐに頂上で休憩。灰形山へは痩せ尾根の急坂がアップダウンを交えて、続きましたが、無事通過できました。湯槽谷山への急坂は丸太階段で小休止を入れながら、ま〜だ〜?とせかさながら頂上到着。安堵のため息が大きく洩れ出ていました。

下山路は変更して、灰形谷にとりました。一次下見では覗いただけで、リーダー一人の二次下見でしたが、痩せ尾根の下りより安全と決断しました。道迷いもなく、鼓ヶ滝公園に予定通りに着きました。トイレのち、クラブ紹介を開いて解散となりました。3時に到着と予定の時間になりましたのは参加者皆様の協力のおかげと感謝いたします。ありがとうございました。湯槽谷を降りる予定で下見をしました。

「難路」の看板を見て行きましたが、道は途中で消滅していました。一瞬の判断遅れで、引き返さず、山行は往復する予定でしたが、痩せ尾根の下りは危険と判断して、灰形谷を採用しました。

(高橋 記)

ウィークデイ 竜王山 10月31日 CL 楠本 S L 福永・塚 参加 15名
JR 天王寺駅 (8:20) - JR 奈良 (8:57) 桜井線に乗換 - JR 柳本 (9:20) 着
柳本駅 9:40 ~ 黒塚古墳公園 9:50 ~ 長岳寺 10:10 ~ 南城跡 11:45 (昼食)
12:15 ~ 北城跡 12:55 ~ トレイルセンター 2:45 解散

山の辺の道の間地点にある竜王山。頂上には戦国時代に建てられた山城のなごりがある。南城跡は、広い平らな山頂でベンチが設置され大和盆地を一望でき、金剛・葛城・二上山も見ることが出来た。昼食後は北城跡にも足をのぼし、長岳寺奥の院への道を下山した。トレイルセンターは何年か前にレストラン風に改装され、山道の情報収集や下山後の「ちょっと一杯」にちょうどよさそう。

道は台風の影響もさほどなく、天気にも恵まれ、歴史の一端にも触れることができた山旅だった。
(塚 記)

教育部 蓬莱峡 (岩登り教室) 11月4日 L 高桑 参加 8名
阪急 宝塚 バス停 09:15 - 座頭谷 バス停 09:35 - 蓬莱峡 09:45
(小屏風にて、岩登り教室) 蓬莱峡 14:30 - 生瀬駅 15:00 於 駅前ミニ反省会
連休の日曜とあって本チャンに出かけてなのか意外と蓬莱峡の人出は少なく、冬山登山訓練の方はスラブに集中している。故に小屏風には終日貸切状態。
その小屏風も台風で足場が流されるも府連の方々の尽力で敷石で復旧され、滝上さんに感謝のお礼を告げる。

今回はトップロープのセッティングの講習やビレイヤーの育成に努める。又、一般会員の参加者は1名でチョット寂しかったが小さなことも実技ができ有意義な講習だったと思う。
(高桑 記)

サロン 堺の歴史探訪 11月9日 L 森下 参加 7名

久し振りの阪堺電車、チンチン電車に住吉鳥居前で下車する。太鼓橋を渡り境内で森下さんから説明を受ける。神社の前がすぐ海で此処を起点に、遣唐史が船出した地だと思えば歴史のロマンを感じる。臨濟の寺南宗寺は、広大で有っただろうと伺える寺領の奥まった所に建つ、自然が残されたような庭園は、参加皆のお気に入りゆっくりと拝観しました。千利休の屋敷跡、与謝野晶子屋敷跡、さかい利昌の杜館、等を見学しました。歴史、史跡の町堺は、高いビルが少なく空が広く、町がゆったりしたよい街でした。市井さんの参加は嬉しかったです。

(宇野 記)

自然保護部 芦生の森へ 11月10日(土)～11日(日)
CL 石野(博) SL 太田 参加者20名

11/10(曇のち晴)

京都駅発 08:58(普通) → 園部駅着 09:42^{送迎バス} → 美山かやぶきの里 10:40
→ 芦生山の家 12:20(昼食) ～ トロッコ道、灰野 13:30～ けやき峠 14:50
～ 山の家 15:50

予定ではなかった美山かやぶきの里で途中下車。土曜日とあって、外国人を含む人が多く、美山の歴史を偲び、紅葉も堪能できた。夕食の後、新しい会員を囲み自己紹介、思い出話等で大いに盛り上がった。

11/11(晴)

山の家 07:30 → 佐々里峠 08:00～ 雷杉 09:50～ 赤崎中尾根～ 雷杉 11:00～
山の家 13:20 → 道の駅 14:25

絶好の天気。マイクロバスで佐々里峠まで送ってもらい、5時間のコース。半数が初めての芦生。適度なアップダウン、紅葉が水面に生える素晴らしさ、芦生の森を十分味わっていただけたのでは。

一方、遭難者が出たらしく、慌ただしいへりの音。京都市消防局の捜索隊と出くわし、思わず自分の事のように身の引き締まる思いを皆もしたのではないかと思う。

おまけ付きの道の駅で、地元の新鮮な野菜を買い満足して帰路に着いた。

(石野(博) 記)

11月ウィークデー 山の辺の道 11月13日

CL 元、 SL 早川、 亀谷 参加16名

JR天王寺駅 8:20 ～ 柳本駅 9:27 ～ 黒塚古墳(展示館見学) ～ 天理トレイル
センター 10:20 ～ 中山大塚古墳 ～ 衾田陵 ～ 萱生環濠集落 11:20 ～ (途中で昼食)
～ 竹之内環濠集落 ～ 夜都岐神社 ～ 峠の茶屋越え ～ 内山永久寺跡
～ 石上神社 13:15 ～ 天理駅 14:00(解散)

時折、雨のぱらつく曇天の日でしたが、暑くなく寒くなく、ゆっくりと秋色の里の景色を楽しみ、歴史を学び、太古をしのび、柿をはじめ地元でとれた豊かな秋の実りを分けていただき(もちろん、お代はお払いしました)・・・と、充実した一日でした。ご参加くださった皆さん、ありがとうございました。

(元 記)

ターブル&土曜山行合同山行 11月18日(日)

CL 児玉 SL 安田 堺 網 参加者 28 名

近鉄鶴橋駅(7:34)⇒東青山駅着(9:09)点呼注意事項コース説明体操(9:25)

滝見台(10:30)⇒布引滝(10:40)⇒飛龍滝(11:00)⇒

尾根の出会い(12:25)昼食(13:00)⇒三角点(13:10)⇒丸山展望台(13:40)

あせびの丘(14:00)⇒滝見台(15:00)⇒東青山駅(16:02)

穏やかな天候に恵まれ出発 晴れやかな気分で布引滝をめざしながら滝見台に到着ここで休憩時間を取り少し下り渡渉する

水かさはなかったが岩が濡れていたため2,3人の方が滑り、危険を感じストックではなく手のサポートで渡渉してくださいと喚起し、皆さんの協力で無事渡る事が出来一安心 所感/ロープを張った方が良かった

布引滝に到着 大日滝 飛龍滝 霧生滝は布引滝の総称である

三角点や丸山展望台で伊勢湾の眺望、渥美半島の眺望、又山頂尾根やあせびの丘の風力発電機が立ち並ぶ光景が素晴らしく、この日は風もなく音は感じなかったが風の強い時には下の方まで聞こえてくるそうです

下山途中倒木をくぐったり乗り越えたりしたため、足がつった人がいたためここでストレッチをして下山する。皆さんの協力で無事下山することが出来ました。ありがとうございました (安田 記)

有志山行 黒部溪谷「下の廊下」 10月18~20日

CL 乾 SL 堺、岩佐 参加 8 名

10月18日(木) 大阪7:40→JR, トロッコ列車乗り継ぎ→樺平 15:06

⇒祖母谷温泉 16:00 (泊)

10月19日(金) 祖母谷温泉 6:40⇒樺平⇒水平歩道⇒阿曾原温泉 14:27 (泊)

10月20日(土) 阿曾原温泉 5:00⇒仙人ダム 6:20⇒S字峡 7:40 十字峡 8:54

⇒黒部ダム 15:15/黒部ダム 15:35→トロリバス→扇沢 16:00→
路線バスにて信濃大町 16:35 信濃大町 17:58→JR 乗り継いで
→新大阪 22:23

念願の期間限定「下の廊下」は安心して通ることが出来るのはほんの1か月だけ。「慎重に歩くこと」と何度も阿曾原温泉小屋 HP では注意が出ている。実際、前日の17日に水平歩道のシジミ谷付近で一人、最終日の20日には日電歩道の十字峡付近で一人、共に56歳男性の滑落死亡事故があったようです。

樺平から黒部ダムまでの黒部川の断崖絶壁を穿った道には、すれ違うにも神経を使う狭い箇所がありましたが、崩れた道には丸太で組んだ橋や大へつりには高巻き

ハシゴなどが設置され、整備してくれた人に感謝。

対岸の岩壁は黄色、オレンジ、茶褐色が主体でそこに赤と緑のアクセント。その秋のキャンバスに水平の細い線と登山者の姿。それは、手を伸ばすと親指と人差し指の1 cm位の間隙に入るくらいの小さな姿。ずっと川音が響いている中、何度も立ち止まり、V字谷の川の流れと岩壁のグラデーションを下から上まで順に見上げて、黒部溪谷の真只中で深呼吸をする。緊張はしてもピークハントとは違う心地よい山行です。

祖母谷温泉小屋は、黒部川沿いに露天風呂があり料理も美味しく、山上の小屋とは段違い。しかし定員超えの阿曾原温泉小屋では25分間カレーお代り自由の3部制夕食と二人で布団一組。他の人の足元に挟まれた真ん中の布団に当たった私は、一人寝ができたものの、夜通し右から左から頭、肩、腹、脚と体中を無数の足で何度も押されて寝付けなかったのです。

(湯浅 記)